

平成 23 年度建設産業人材確保・育成推進協議会「私たちの主張」

協会長表彰式 次第

平成 24 年 2 月 17 日
兵庫建設会館 201 号室

次 第

開 会 15:20

伝達表彰 表彰状、記念品贈呈
中央選考 佳作受賞者
神島 充子 (株)神島組

協会長表彰	表彰状、記念品贈呈	受賞者
	中井 隆輔	株本建設工業(株)
	大羽 將裕	株本建設工業(株)
	松本 知久	(株)ソネック
	脇田 拓実	(株)サージ・コア
	足立 宗摩	但南建設(株)

会長あいさつ

記念撮影

閉 会 15:40

(注)受賞者 集合(205号室) 14:45
会場へ移動、着席(201号室) 15:10

『私たちの主張』協会長表彰について

平成 24 年 2 月 17 日

(社) 兵庫県建設業協会

国土交通省は、建設業に従事している若年労働者の意識高揚を図り、建設産業の社会的評価の向上やイメージアップを推進していくために、『私たちの主張』を募集しました。

(社) 兵庫県建設業協会では、人材確保・育成推進の取組みとして平成 23 年度に兵庫県から応募されたメッセージ（作文）の中から当協会独自の選考基準に基づき優秀な作品を選定し、協会長表彰を授与するものです。審査の結果は、下記のとおりです。

記

○表彰者

平成 23 年度建設産業人材確保・育成推進協議会『私たちの主張』

【中央選考】佳作 受賞者

神島 充子 (株)神島組 「夢は道しるべ」

『私たちの主張』協会長表彰 受賞者

中井 隆輔 株本建設工業(株) 「モノ造りは人との繋がりを広げる」

大羽 將裕 株本建設工業(株) 「私が伝えたいこと」

松本 知久 (株)ソネック 「建設業に就職して」

脇田 拓実 (株)サージ・コア 「夢を変えた一言」

足立 宗摩 但南建設(株) 「より良い建設業のために」

《募集の概要》

対象者 平成 5 年 4 月 1 日以前生まれで、建設業に入職後、1 年以上の実務に携わっている方。

募集期間 平成 23 年 8 月 8 日～平成 23 年 10 月 31 日

応募数 12 企業 20 名

賞状

佳作

神島 充子 殿

あなたは建設業の役割や
重要性について理解と関
心を高めるための平成23
年度「私たちの主張」に
応募され頭書の成績を収
められましたのでこれを
賞します

平成24年1月27日

建設産業人材確保・
育成推進協議会



【中央選考】佳作

夢は道しるべ

神島充子 (株)神島組

私の幼稚園の頃の夢は、大きくなったら幼稚園の先生になることでした。ずっと夢を持ち続け、自分が通園していた幼稚園の先生になり、幼い頃の夢を実現させました。

園児たちは、どの子ども目をキラキラと輝かせ、我先に自分の夢を語り、皆、夢で一杯でした。園児たちの夢が叶う事を祈りつつ結婚の為、楽しかった園生活の勤務を終えました。

主人は、建設業を営む二代目で皆から「若」と呼ばれていました。結婚当初は、少々とまどいもありましたが、皆気さくでいい人だなと受け止められるようになりました。

夕食後は「若」と二人で現場の写真整理が日課でした。トランプのカードを配るように現場毎に仕分けし、今度は各工事ごとの写真帳に差し込み、更に黒板の記載事項を記入して仕上げます。当時は、主人とあと一人監督さんがいました。主人は五、六カ所の現場を掛け持ちでこなしていました。ですから私も何とか役に立とうと考え、写真の整理や工事日誌や施工計画書の作成等だんだんとジャンルを増やしていききました。写真整理をしていると工事の竣工までの過程が、良く理解できるようになり、きれいに竣工した時は、本当に嬉しく充実した気分になりました。

昼は経理の勉強をして試算表の作成までマスターし、経審や指名願、労災や社会保険等の各種手続き、一級土木や経理事務士の資格も取得しました。

四十年間、夢中で取り組んできましたが、建設業界は大きな試練の時を迎えています。

不況と言えば、景気対策で公共工事をとという政策は、バブル崩壊に伴う経済の低迷に加え、「コンクリートから人へ」と大きく政策の転換がなされ、また国民の公共事業に対するバッシングも加わり縮小の一途を辿り、必然的に熾烈な価格競争へと突入しています。しかし他産業界は、もっと早くコストと技術で戦いを余儀なくされています。

建設業界も正に技術とコストと企業の体力勝負にかかってきました。

主人である弊社社長は、平成七年のあの阪神大震災で会社も自宅も全壊となり大きな打撃を受けながらも、いち早く社会の大きな変化を読み取り、年々縮小する公

共予算や少子化等による業界の低迷は避ける事が出来ないと実感し、神島組にしかできない独自技術を開発し、生き残りを図るしかないと考えました。独自技術で「必要とされる企業」を目指し、目標は岩盤掘削日本一という大きな夢を掲げました。

研究開発のきっかけは、崖つぶちの建設業からの「生き残り」であり、研究課題は現場での失敗と苦労の原因を洗い流す事から始まり、「岩」につきあたった。住宅地での岩盤掘削は、必ずといってもいい程、苦情がありました。苦肉の策でアイオンに布団を巻いて防音したりしました。でも、布団は燃えるし、効果はありませんでした。そこで、何とか静かに岩を割る工法を考えて欲しいと思っていたところ、社長は環境に優しい特許工法を次々と開発していきました。

その原動力は、やはり現場で苦労してきた事や、受注した工事は機械も人も全て自前でやり遂げる事、つまり、「ほんまものの土建屋」にこだわってきた事が原点だと思います。「不屈の精神」がそこにあり、あきらめないで前へ進めたのは、目標や夢があったからだと思います。

「夢は道しるべ」です。

仕事の面白さを教えてくれた社長に感謝です。社長曰く「特許」は、自分の身の周りに転がっている。それに気付くかどうかは、本人の意識次第だと言っています。

この建設業は、日本の基幹産業の一つであり、なくてはならない産業で、災害の多い日本で尊い生命や財産を守る大きな使命があります。

やりがいのある大きな仕事なのです。今こそ、若い力が必要とされています。新しい技術を産み出し、皆で力を合わせて、この国を守りませんか。

機械もトラックもない時代に、大きな城を築造した先人たちの知恵や技術は、学ぶところが多く、先人たちも築城にきつと大きな夢を託したことでしょう。

国づくりには、大きなビジョンが必要です。ぜひ若い力を発揮して、大きな夢を描いてみませんか。